

背景

結城紬の柄は、伝統的に緋柄により表現されているが、近年産地では製織方法や染色技術を工夫することで新たなデザインの表現に取り組んでいる。

当センターでは令和元年度経常研究において、地機織りに縫取り技法を取り入れた帯の製織を行い、製織段階で任意の場所に多くの色を使用した模様を表現することができた。ただし、縫取り技法の場合、模様部分には模様の色を表す縫取り糸だけでなく、地色の経糸・緯糸も表面に現れるため、模様部分の色を縫取り糸の色のみで表現することはできなかった。

そこで本研究では、結城紬の柄の色を鮮明に表現するために、織密度や使用する糸の織度等を検討し、地機織りにつづれ織りの技法を取り入れ、製品開発に取り組んだ。

研究目標と結果

研究目標

- 地機織りにつづれ織りを取り入れた場合の製織条件の検討及び、帯の製織を行う。

実施内容

① 布地サンプルの製織

〔方法〕 つづれ織り技法に適し、手つむぎ糸・地機を用いた製織に適する条件を検討するため、糸の織度や密度の条件が異なる42種類の布地サンプルを製織し、布地の表面観察や製織作業性の検討を行い、各製織条件について評価を行った。

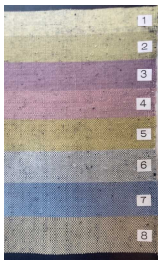
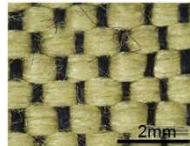
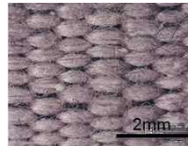


図1 製織した布地サンプル(一部抜粋)



経糸(紺色)が隠されなかった布地



経糸(紺色)が隠された布地

〔結果〕

経糸密度に対して緯糸密度が高すぎると糸が毛羽立ちやすいため、経糸・緯糸には適切な織度の引き揃え糸を使用することにし、以下の製織条件を求めることができた。

- ・経糸条件：箆密度40羽/寸(寸：3.8cm)
1羽あたり1本引き込み
織度 [平均321D]
- ・緯糸条件：お太鼓部分 [平均413D]
お太鼓部分以外 [平均1012D]

② 絵柄の試し織り

〔方法〕 表現できる柄(柄の細かさ)、異なる2色が隣接する部分の柄の出方、製織方法の検討を行うため、曲線や直線を含む6パターンの図案を使用し、絵柄の試し織りを行った。

〔結果〕 予定していた絵柄はすべて製織可能であった。伸子は使用せず、緯糸の打ち込みに箆・杼を使用し、部分的な打ち込みに爪・櫛を使用した。

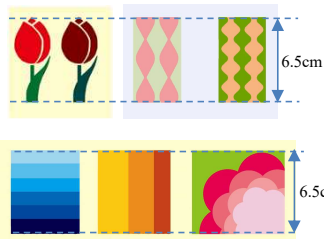


図3 試し織り図案



図4 製織した布地

③ 帯の製織

最後に、サンプル製織及び絵柄の製織結果を反映させ、帯の製織を行った。帯は着用したときに身体の背面(お太鼓部分)のみに柄の出る名古屋帯とした。



図5 製織した帯の絵柄

まとめ

- 地機の製織につづれ織り技法を取り入れ、模様の色を鮮明に表現し、任意の場所に柄を織りだした帯を製作することができた。

ご来場の皆様へ

問い合わせ先: 栃木県産業技術センター紬織物技術支援センター TEL 0285(49)0009

- つづれ織り技法は結城紬の柄の色を鮮明に表現でき、新たなデザイン開発に役立ちます。
- 本研究で製作した結城紬の帯は、当支援センターでご覧いただけます。

